

鳥羽恐竜研究振興会

平成8年、鳥羽市安楽島町の砥浜海岸の崖の中から恐竜化石が発見されたことをきっかけに結成。以来、「鳥羽竜」化石発見の地の研究、情報発信、体験活動の学習の場の提供などを中心に活動しています。



向かって左から、事務局の大川 千恵美さん、事務局長の山下 直樹さん、理事の江崎 満さん。

お問い合わせ

「鳥羽恐竜研究振興会」事務局
鳥羽市鳥羽一丁目10-48
(鳥羽市歴史文化ガイドセンター内)
TEL 090-4790-0559

三重県内で活動するグループを紹介する「いま、グループネット」。今回は「鳥羽恐竜研究振興会」をご紹介します。この日は、恐竜の骨化石発見現場で、事務局長の山下 直樹さんに夢とロマン溢れる話を伺うことができました。

——私たちは今、恐竜化石が発見された砥浜海岸にいますが、当時の状況を教えてください。

山下：平成8年の7月、貝化石採集に來ていた研究家4人が偶然見つけて、県の教育委員会に連絡したのが始まりです。この海岸の地層は、中生代白亜紀前期(1億3800万年前)に形成さ

れたと考えられていて、貝化石が多い場所として知られていましたが、崖の一部に恐竜のような骨化石の断面が見えたことから、県と鳥羽市が大型化石発掘調査団を結成しました。この時、市民も参加しようと結成したのが「鳥羽恐竜研究振興会」です。

——皆さんが力を合わせて発掘調査した結果、大発見につながったのですか。

山下：そうです。同年の10月から始まった調査の結果、特定できた部位は、左右の上腕骨・左右の大腿骨や尾椎など12点です。その中で一番大きなものは右大腿骨で、保存部位の全長は128センチメートルもあります。当時の日本で、これだけ大きく、一頭分の恐竜化

石の発見は初めてだったため、話題になりました。以来、発見場所にちなんで「鳥羽竜」と通称されています。

——「鳥羽竜」の種類・大きさなどは、どこまで判明しているのですか？

山下：平成13年に、研究成果の発表会を市内で開催した時に、中生代白亜紀前期にアジア地域に生息していた竜脚類のティタノサウルスの仲間だろうと発表されました。大きさは長さ16〜18メートル、重さ31〜32トンに達します。竜脚類とは、首と尾の長い四足歩行の巨大な恐竜のことで、植物を食べていたと思います。当時は、まだ日本列島はない時代で、アジア全体が暖かく、大きなシダ類などが豊富に生えていた

と思われま

——会の皆さんは、イグアノドン類の足跡化石の保護活動に加えて、体験学習なども積極的に行っていますね。

山下：イグアノドンは草食性恐竜の中でも二足歩行ですが、この足跡化石は「鳥羽竜」の2年後に発見されました。新たな恐竜化石発見に、驚きました。実は今日は、たまたま本物の足跡化石を見ることができですが、崩れやすいために、いつもは保護して見えないようになっています。そのため、パ

ロード沿いに整備した小公園に「鳥羽竜」の大腿骨化石と、この足跡化石のレプリカを常設して、子どもたちにも触ってもらえるようにしてあります。

体験学習は、夏休み期間中を中心に、「化石レプリカづくり体験教室」夏休み盛りだくさん体験活動「化石採集と海浜生物の観察会」を開催しています。実は「鳥羽竜」にはまだ学名がありませんが、もし、化石採集体験の最中に、歯か頭骨の化石を発見できれば、学名に発見者の名前を付けることも可能です。

ぜひ、鳥羽の子どもたちに発見してもらいたいものです。

——ありがとうございます。山下さんからは、最後に鳥羽・志摩・伊勢地域を「ジオパーク」(地質学的に貴重な地形などを備えた自然公園)として整備する構想についても教わりました。こうした活動を通して、鳥羽の子どもたちにもっと地域のことを知ってもらい、自慢してほしいとの想いも伝わりました。

インタビュー：中村 真由美



イグアノドンの足跡化石



化石採集体験参加の子どもたちへの事前説明※



「鳥羽竜」の右大腿骨化石(左)とイグアノドン足跡化石のレプリカ



「化石レプリカづくり体験教室」※